

「中央アジア諸国におけるコミュニティ研究—ジェンダーの視点から—
(ウズベキスタン、タジキスタン、カザフスタン、キルギスの事例より)」

大谷順子 大杉卓三 河野明日香

要約

本報告書は、(財)アジア女性交流・研究フォーラムから客員研究員制度を通じて助成を受けた『中央アジア諸国におけるコミュニティ研究—ジェンダーの視点から— (ウズベキスタン、タジキスタン、カザフスタン、キルギスの事例より)』にかかる研究成果を取りまとめたものである。

本研究の具体的課題は、近年中央アジア諸国において新国家建設の基盤として活用され始めている地域コミュニティがどのような状況にあり、そこでどのような女性のコミュニティ活動があるのかの実態を探ることであった。そして、そのような一連の作業を通し、中央アジア諸国の女性のコミュニティ活動の意義と課題を考察することを本研究の主目的とした。

実際には、ウズベキスタン共和国、キルギス共和国、タジキスタン共和国という3カ国の地域コミュニティにおける事例を取り上げた。また、これらの国々で伝統的地域共同体の影響が強いオアシス農耕民族を主としたコミュニティの事例を取り上げているのに対比させて、本来、伝統的部族制の影響が強い遊牧民族が主であるカザフスタン共和国も参照し、分析を行った。キルギス共和国については、国全体としては同じく遊牧民族が主であるが、本研究の事例では、南部のウズベキスタンに近いオシュ市に居住するウズベク民族の伝統的地域コミュニティとキルギス民族の地域コミュニティの事例を中心に分析を行った。

中央アジアはソ連崩壊後に再び歴史の表舞台に姿を現したアジアの一員であり、ソ連崩壊後の近年、さまざまな分野で注目を集めている地域である。これまで中央アジアをフィールドとした研究は、主に歴史学や国際政治学、国際関係学、地域研究、開発経済学、文化人類学などの領域で行われているが、女性学の分野においては豊富な研究蓄積があるとはいえない。これまでの研究は文献分析に基づいた歴史研究や政策分析であったり、中央アジアでこれまで発表された女性学関連の先行研究を整理するものであるなど、現在の中央アジアにおける女性の実態や、女性たちが実際に日常生活を送る地域コミュニティ、そのコミュニティにおける女性たちの諸活動に根ざした研究は行われてこなかったのである。

各国政府が地域コミュニティを基盤とした新国家建設を推進し、コミュニティ内の女性委員会がさまざまな活動を実施している現在の中央アジアにおいて、コミュニティにおける女性の諸活動の実態や今後の課題を検討することは、現在の中央アジアの社会状況を考察する上で重要な課題である。このような中央アジア諸国の現況において、各国の地域コミュニティの実態を把握しながら、女性のコミュニティ活動をジェンダーの視点から分析

し、その意義と課題を捉えようとしたのが本研究である。

本報告書は、本研究における課題設定と本研究の目的、関連の先行研究に触れた序論、ウズベキスタンとタジキスタンの地域コミュニティについての基礎情報を提示したⅡ章、3カ国(ウズベキスタン、タジキスタン、キルギス)における女性のコミュニティ活動の具体的な事例を分析したⅢとⅣ章、それらのコミュニティ活動を「ジェンダーとエスニシティの相関」という観点から比較分析したⅤ章、そして本研究の結論と今後の課題についての提言を行ったⅥ章の計6章から構成されている。

まず、序論では本研究の背景となる中央アジア諸国の現況についてレビューし、関連する先行研究について検討を行い、本研究の目的として3つの具体的課題を設定している。第Ⅱ章では、ウズベキスタンとタジキスタンの地域コミュニティについて、マハッラとジャモアトの実像について提示した。次に、第Ⅲ章と第Ⅳ章では、ウズベキスタン、タジキスタン、キルギスの地域コミュニティにおける女性の諸活動の実例を挙げ、その実態の検討を行った。その事例をもとに、第Ⅴ章では「ジェンダーとエスニシティの相関」という視点から、「民族」によって媒介されたジェンダーの在り様について、特にオシュ市の事例に沿って考察した。最後に、第Ⅵ章に本研究のまとめとして、結論と今後の課題に関する提言を明示した。